

■ 老いを否定せず、年を取っても前向きに

修正： 2024.01.01

投稿： 2024.01.01



● 老いを否定せず、年を取っても前向きに①

「あそこへはどう行けばいい？」と問えば、

ある人は「なら東の方へ進め！」と答え、
ある人は「なら南の方へ進め！」と答えます。
いったい誰が正しいことを言っているのか？
という話ですが、実は誰も、私が今どこにいるかは知りません。
そういうことが人生でも多々あるなと思う今日この頃です。

//-----

さてさて、本題ですが、

「人間は 10 歳頃までで、性格の 90%以上が形成される」

ということが分かっています。「三つ子の魂百まで」
とも言われているように、実は私たちは、
乳幼児の段階で自分の形が決まってしまうわけです。

「私は○○になりたい！」と夢や目標をもつのは、
15 歳あたりでのことでしょうか。当然、
その頃までには性格は完全に決まっています。
そして性格には、向き不向きというものがあります。

ゆえに、夢を叶えたいと思い始めた段階ですでに、
自分にとってその夢は叶えやすいのか、それとも叶えにくいのか、
は性格によって決まっているということになります。

この「性格」の形成は、親からの遺伝のみならず、
生まれた場所や家庭環境も大きく影響しています。
例えば、開放的な環境で暮らしていれば開放的になるでしょうし、
好奇心の強い親の下で育てられれば、子供もそうなるでしょう。

はたまた、人付き合いの上手い性格かどうかも、
親で決まります。まさに「蛙の子は蛙」です。
親がコミュ障なら子もコミュ障になるのは宿命なのです。
親との会話を通してコミュニケーションを学ぶわけですから。
その後は学校ですが。

そして、誰一人、

親や家庭については**選ぶことができません**。

つまり私たちは、人生がほぼ**確定**した状態で
この世に生を受けたということになります。

(続)

//=====//

●老いを否定せず、年を取っても前向きに②

毎朝、来る日も来る日も、鏡に映る自分の顔を覗き込み、
「あぁ、またしわが増えた…、年を取ってしまった…」と、
老化していく自分の姿を確認するのが日課となっています。

「あなたは年を取ることを楽しめていますか？」

なんて言えば炎上しそうですが、しかし、
年を取ることを否定すると、自分の**未来**を否定する
ことになってしまい、生きていくことが辛くなります。

若い頃は、年を取ることは「**成長**」でした。しかし徐々に、
年を取れば取るほどできることが少なくなり、
近しい人も一人また一人とこの世を去っていき、
次は自分の番かなと、近づいてくる「**死**」を意識させられます。

それでも前向きに生きていくために、
「根拠のない自信をもて！」だとか、
「何事もポジティブに捉えよう！」だとか、
元気づけられる言葉をよく目にしますが、
どれだけの効果があるのでしょうか。

とは言っても、どれだけ年を取っても前向きに、

元気に生き続けたいとは願うところです。

「病は氣から」とも言いますし、
「思い込めばその通りになる！」と言うのであれば、
前向きに思い込んで生きていきたいと思います。実は、

「できる！ Σヽ(´д´;)ノ うおおおおお！」と思い込もうが、
「無理だ… (´・ω・`) 希望は捨てよう…」と思い込もうが、
どちらも「**そう思い込んでいる**」ことは同じです。であるなら、
少しでもポジティブな方向に思い込んで生きていきたいと思います。

(続)

//=====//

●老いを否定せず、年を取っても前向きに③

年を取りたい人なんていないと思いますが、しかし、
年を取らない人はいません。誰もが年を取ります。

そして、年を取るとできることが少なくなり、ゆえに、
相手にしてくれる人も減っていきます。だからこそ、
私たちは年を取ることは**否定的**です。それすなわち、
そもそも**人生**に否定的であるということです。

どうして人生はこうも苦しいのか…。ここでは、
「**力学的エネルギー保存の法則**」の観点から、
人生において「**得るもの**」と「**失うもの**」を捉えてみたいと思います。

まず、力学的エネルギーとは、
「位置エネルギー」と「運動エネルギー」の和のことで、

これが一定であるというのが、
力学的エネルギー保存の法則です。そして、

位置エネルギーとは「高さ」に比例し、
運動エネルギーとは「速さ(の二乗)」に比例します。

これを人生に当てはめれば、さしずめ、
位置エネルギーは「**肉体の強さ**」に相当し、
運動エネルギーは「**精神の強さ**」に相当しそうです。

ということは、年を取るとは、
「**肉体の強さがすべて精神の強さに転換するプロセス**」
と解釈できます。これは実際そうで、

若者は、体は強くとも心は未熟であり、一方、
老人は、体は弱くとも心は成熟しています。
年を取ることで確かに肉体的な魅力は損なわれますが、
人生経験を通して内面は磨かれていくわけです。

もし内面を磨くことを怠り、
「**見た目は大人、中身は子供**」となれば、
目も当てられません。

年を取れば取るほど美しく！

というわけで、年を取ること自体は避けられませんが、
内面を磨くことを通して、
男性なら、「**カッコいい爺さん**」を目指し、
女性なら、「**清楚な婆さん**」を目指せばいいのではないのでしょうか。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)